

研修名 保育内容研修7（発達心理）

平成28年9月6日（火）10:00～12:30

講演 「乳幼児のこころ・子育て・子育ての発達心理学」

講師 東京大学大学院 遠藤 利彦 氏



1 講演要旨

1) ①自己と社会性のゆりかごとしてのアタッチメント

生涯発達の鍵となるアタッチメント（愛着）が如何に確実に安定して
できるかが、生涯に亘る心身の健康的な発達の鍵になる。

②アタッチメントと安全感の輪

アタッチメント = 危機に接した時に、特定の誰かにくっつくこと
すること。

身体的くっつきから、気持ちの上でのくっつき（絆）

安心感が得られるという見通しの大切さ

この輪が、自然にかつ確実に機能し得るかが、子どもの健やかな心身の発達の
カギになる。

アタッチメントとは恐怖管理・安全確保のための心身の仕組み。

③アタッチメントの二重の働き

・感情の調節・立て直し

→子どもの崩れた感情をなだめ、回復させる。

・感情の調律・映し出し

→子どもの感情に寄り添い、映し出してあげる。

④基本的信頼感と自律性・たくましさ

・特定の他者に対するくっつきを通して安全の感覚を回復・維持し保護して
もらえる・愛してもらえるとこの基本的信頼感 = 「愛の理論」を得る。

・子どもは探索する中で、適度なネガティブな感情を経験→能動的にシグナルを
送ることで感情を立て直す。

→自律性・自己効力感・心のたくましさ

2 感想

保育所では、子ども達の家庭「外」のアタッチメントを補償し得る事が出来るという
事の講演を聞き、改めて勉強になったので、それらの事を忘れずに、今後の保育にも
活かしていきたいと感じました。

（記録 笠置町立笠置保育所 黒石 佳那子）